

2021年5月17日
株式会社ディー・ディー・エス

クライアント証明書による安全なリモートアクセスを実現 ～FIDO 認証サービス「マガタマサービス」にクライアント認証機能を追加し、提供開始～

指紋認証を始めとした様々なセキュリティ・ソリューションを提供する株式会社ディー・ディー・エス（本社：愛知県名古屋市、代表取締役社長：久保 統義、以下 DDS）は、次世代オンライン認証規格 FIDO（Fast IDentity Online）に対応したクラウド本人認証「マガタマサービス」に、クライアント証明書の発行・配布ができるクライアント認証機能を追加し、標準機能として 2021 年 6 月 1 日から提供を開始することを発表します。

昨今、多くの企業がデジタルトランスフォーメーション（DX）対応やニューノーマル時代に合わせた働き方の変革に迫られています。スマートフォンやタブレットなどスマートデバイスの普及で、クラウドサービスの利用や、インターネット経由で社内ネットワークにアクセスして仕事をするなどの働き方が一般的となってきております。サービスを利用できる端末を特定する「クライアント認証機能」はセキュリティの観点からニーズがありながらも、高額かつ手続きや設定が煩雑なことから導入は一部に限られています。

マガタマサービスは、ID/パスワードが盗まれた際の第三者によるなりすましログインの防止に FIDO 認証を採用し、本人確認の強化を図っておりますが、これに加え、システムやサービスを利用するユーザーのデバイスにインストールするクライアント証明書機能を追加しました。

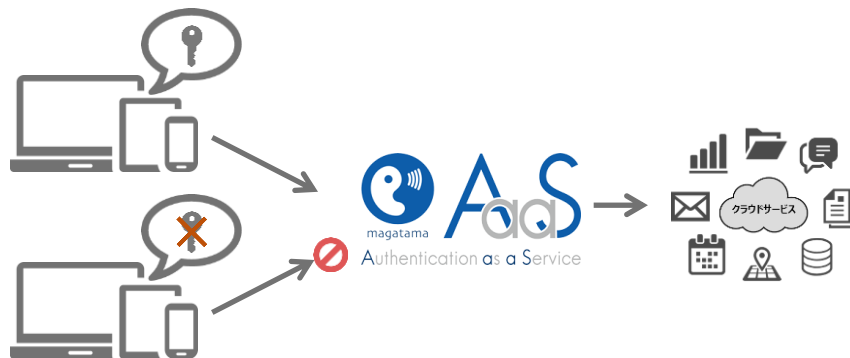
本機能は、クライアント証明書をインストールしたユーザーのデバイス（端末）にのみ「マガタマサービス」へのアクセスを許可する機能で、これにより利用する端末単位でのセキュリティ向上を図ることが可能となります。

なお、当発表において DDS の 2021 年 12 月期の連結業績に与える影響は軽微であります。

《「マガタマサービス」のクライアント証明書機能の特長》

クライアント証明書がインストールされている場合は、許可済みのクライアント証明書がインストールされた端末でなければ「マガタマサービス」にアクセスできないため、不正なアクセスを防ぐことができます。

- ・ Windows、macOS、Android、iOS、Chrome OS に対応
- ・ 社内ネットワーク接続端末のみインストールが可能（専用インストーラー利用）
- ・ 管理者による一括発行、配布が可能



クライアント証明書機能で不正アクセスを防止

《製品概要》

■クラウド本人認証「マガタマサービス」について

「マガタマサービス」は、業務で利用する複数のウェブサービスへのログイン情報をひとつにまとめてパスワードレスを実現します。パスワードの使い回しをなくして利便性・効率性を向上するとともに、認証には次世代オンライン認証規格「FIDO」に準拠した生体認証やワンタイムパスワード認証を利用することで安全性を強化するクラウドサービスです。

(ホームページ：<https://www.dds.co.jp/product/3415/>)

《株式会社ディー・ディー・エスについて》

DDSは、指紋認証ソリューションのリーディングカンパニーとして創業以来、産学連携による技術開発に積極的に取り組んでおります。多様化する情報セキュリティ・ソリューション・ニーズに対応可能な「万能認証基盤 Themis」、「多要素認証基盤 EVE MA」および「二要素認証基盤 EVE FA」を始めとする情報セキュリティ製品の開発・販売を行っております。

2014年4月、オンライン認証の標準化団体である FIDO (Fast IDentity Online) アライアンスに、国内企業として初めて加入。2015年10月に、FIDO 認定製品である指紋認証デバイス“magatama®”を発表、2017年5月より、生体認証を活用した認証システムの構築を実現する「マガタマプラットフォーム」を提供、本人認証の世界を広げる新しい認証サービスの普及に努めております。また、ブロックチェーン技術の認証系市場での活用研究も進めております。

(ホームページ：<https://www.dds.co.jp/ja/>)

■本件に関するお問い合わせ先

株式会社ディー・ディー・エス
営業本部 販売促進部 販売促進課
Email：sales@dds.co.jp

※プレスリリースに記載されているロゴ、会社名、製品・サービス名は、各社の登録商標または商標です。

※プレスリリースに掲載されている内容、製品・サービスの価格、仕様、お問い合わせ先、その他の情報は、発表時点の情報です。その後予告なしに変更となる場合があります。また、プレスリリースにおける計画、目標などは様々なリスクおよび不確実な事実により、実際の結果が予測と異なる場合もあります。あらかじめご了承ください。